

# CLINICAL RESEARCH WARD

## 医科研での遺伝子治療にむけて

病態薬理学 助教授  
谷 憲三朗

昨年1月27日に、山口宣生教授の訃報を伝えるファックスを投宿先のサンフランシスコ近郊・アラメダ市マリナヴィレッジインで、当研究室のT先生からもらい、一瞬眼前が真っ暗になり、信じられずにサンフランシスコの日本人街で読売新聞国際版を求め、あらためて驚きと悲しみに包まれ、一人異郷のさすらい人の様な心境に陥ったことを記憶しております。当時、文部省より短期海外研修費を頂き、遺伝子治療の共同研究者であるアラメダのソマティックス社においてレトロウイルスベクターを用いた遺伝子導入法の安全性確認法の実地研修と、当社が米国FDAへ提出したIND (Investigational New Drug) 資料の邦語簡約書類を作製すべく、1月中旬から約1カ月の予定で滞在している間の出来事でした。山口先生には、医科研附属病院遺伝子治療臨床研究審査委員会委員長として平成7年よりご多忙の中、多大な御尽力と貴重な御助言と御指導を頂き、誠に感謝の念に絶えませず、深くご冥福をお祈りいたします。

山口教授、さらにはその後を引き継いで委員長になって下さいました黒木登志夫教授、各審査委員の先生方、さらには前所長ならびに現所長の御助言と御指導を頂き、ようやく昨年8月の委員会で、浅野病院長を中心に本附属病院で計画されてきた『腎細胞がんに対する免疫遺伝子治療』

の遺伝子治療臨床プロトコルの学内承認が得られ、その後いくつかの事務上の手続きの後、昨年12月に文部省、厚生省での審査が開始されました。

本臨床プロトコルは、第IV期腎細胞がん患者の病側腎を摘出後腎細胞がん細胞を大量培養し、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子 (GM-CSF) 遺伝子を導入し、大量放射線照射した後に、患者皮内に投与するというプロトコルであります。この方法が試みられる背景には、第IV期腎細胞がん患者には現在有効な治療法がなく一年生存率が39-50%であること、腎細胞がんに対してはある程度の免疫療法による治療成果が期待できること、マウスの系で放射線照射GM-CSF遺伝子導入腎細胞がん細胞は宿主に対して有意な腫瘍縮小効果をもたらしたことがあります。

今回は薬剤の治験で言えば主に安全性の検討を行う段階に相当しています。しかし方法論的安全性に加え、宿主抗腫瘍免疫誘導能の有無を免疫学的検査法を用い検討し、臨床効果も画像診断を用い評価する予定です。遺伝子治療自体新たな治療法であり、まだ開発途上であることは否めません。しかし、それだけに今後如何様にも進化できる可能性を内包しており、現代医療の限界を痛感しているわれわれ臨床医としては、この第一歩を大切に、さらなる医療展開につなげていきたいと考えています。今後さらに第二歩目、第三歩目も踏み出せればと考えており、基礎研究部のご協力を得て是非医科研産の遺伝子治療を開発していきたいと、われわれ臨床医は強く願っている次第です。今後とも所内の皆様方の御助言と、御協力を宜しくお願い致します。

## EVENT

### 新しいスタイルで行われた医科研研究発表会

本研究所は、例年12月に研究発表会を開催している。本年度は従来の方式を大幅に変え、新しいスタイルで行った。この発表会は1991年から行われているもので、所内の各研究部、診療科、施設、センター等の研究単位が年末の2日間、一堂に会してそれぞれの成果を発表し、理解しあう、あるいは批判しあうというのがその趣旨である。発表会そのものには例年積極的な評価がなされてきたが、一方では実施方式について論議がいつもあったので、本年は大幅な変更を行い、新しいスタイルで開催することになった。

新しい方式は、a) 講演の数を限定し、演説会を1日とすることによって聴衆の消耗の軽減を図るとともに、各講演の時間を長くとり、研究の流れが十分理解されることを期待したこと、b) 研究部単位の発表はポスターとし、拘束時

間の軽減を図ったこと、c) ポスターの中から若手の優れた研究を選出し、選ばれた者によるごほうび付きのセミナーを開くことによって若手の奨励を図ったことなどである。

講演では、研究グループ (G0-G4) より選ばれた各2題が発表されたが、完成した研究者による充実した内容とたくみな話術により、迫力に満ちた、医科研ならではの発表会となった。ポスターは研究者間の交流の場としての機能を十分に果たして好評であったし、また若手のセミナーは、従来の発表会でなかなか感じとれなかった研究の多様さが浮き彫りにされ、聴衆にサイエンスの醍醐味を満喫させてくれるものであった。若手の健闘に拍手を贈りたい。

しかし、問題がなかったわけではない。気になったのは、聴衆が概して少なく、特にセミナーでは、常時出席者が50